

京都市域におけるデート DV に関する 意識実態調査

公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262 番地

京都市男女共同参画センター ウィングス京都市内

助成事業の概要

- 助成事業：デート DV に関する実態調査
- 調査の目的：若年層の男女共同参画ならびに暴力の意識、実態を明らかにし、今後の施策のための基礎資料とする。
- 調査対象：京都市域に拠点を置く大学に在籍する学生
- 調査方法：大学における授業を通じた調査票の配布および回収
- 調査期間：平成 23 年 11 月 15 日～平成 24 年 1 月 15 日
- 有効回収数：672 人（有効回収率 52.1%）
- 調査内容：
 1. 恋愛観・価値観について
 2. 「デート DV」について
 3. 交際相手との関係について

事業の成果

京都市では平成 15 年 12 月 26 日公布・施行の京都市男女共同参画推進条例第 8 条において、配偶者等に対して身体的又は精神的な苦痛を与える行為を禁止しており、また、「京都男女共同参画推進プラン」の基本目標の一つである「個人の尊厳が確立された社会づくり」を目指して、「女性に対するあらゆる暴力の根絶」に取り組んでいる。DV（※1）の根絶を願うとともに、その予防に取り組むためには、まずデート DV（※2）の実態を把握することが不可欠であることから、この調査を実施したものである。

本調査では、京都市域に拠点を置く大学に在籍する学生を対象に、性についての情報減や恋愛観・価値観、デート DV についての被害／加害体験、また被害を受けた場合の状況等についてたずねた。

調査の結果、全体の約 6 割が交際中、または交際経験があり、うちデート DV を受けたことが「ある」もしくは「少しある」と答えた割合は女性 19.3%・男性 16.3%であることがわかった。

「恋愛観・価値観」では、「彼氏・彼女がいないのはかっこ悪い」と思っている男性は女性よりも多いこと、男女とも約 3 割が「つきあっている二人の間に秘密や隠し事をしてはいけない」と思っているなど、デート DV につながりやすい意識を持っていることがわかった。

ジェンダー観では、男女ともに社会が男女不平等だと感じていながら、子育て中は女性は家庭にいるべきとの設問に女性 3 割弱、男性の半数近くが「そう思う」と回答しているなど、従前からの性別役割意識が若者たちの間にも残っていることなどがわかった。

また、デート DV の被害／加害の体験が「ない」と答えた人の中にも、項目を詳細に分けて具体的に経験をたずねると、被害／加害体験が出てきた。これは、暴力であるという自覚が無いままに、デート DV の被害／加害が発生しているということである。

今回の調査から、デート DV の被害が一定数「ある」ということとともに、多くの学生がデート DV について正しい知識や理解を持っていないこと、男女ともに誤った恋愛のルールに縛られてい

ることなどが明らかになった。

(※1) DV (ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など、親しい関係の人から受ける暴力によって支配されてしまう関係のことです。

(※2) 特に恋愛における DV をデート DV といいます。

■ 今後の展開

DV の防止という観点からみると、被害者の支援や加害者への処罰だけでは不十分であり、むしろ若年層のうちから、DV についての理解を深め、DV の根底にある固定的な性別役割分担意識を問い直し、相手を尊重する関係を築いていけるような教育、また被害者にも加害者にもならないための防止教育が重要である。

今回は、大学生を対象とした調査を行ったが、今後は対象を高校生に広げてさらなる調査を実施するとともに、現状を把握して全市的に予防啓発に取り組んでいくための資料として、それらの結果を活用していきたい。